

事例 11 教職員と児童を対象とした森林教室

(中部森林管理局 木曾森林管理署)



- ・長野県木曾郡（きそぐん）王滝村（おうたきむら）御岳（おんたけ）国有林
- ・（左）御嶽山の噴煙が見える濁川（にごりかわ）での教職員研修（令和4年8月）
- （右）模型を使用した実験に見入る児童（令和4年9月）

木曾森林管理署では、王滝村教育委員会からの依頼により、令和4年度に同村の教職員を対象として、昭和59年に発生した長野県西部地震による被災箇所等の治山事業による復旧状況の見学等の研修を行いました。

参加者からは「災害復旧のために多くの方が苦勞して治山事業を実施するとともに、ボランティアによる植栽も行われたことで、森林が回復したことに感動した」等の感想がありました。

その後、参加した教職員から、児童たちにも被災地の復旧状況や災害の規模を体感させたいとの要望があったことから、児童を対象とした森林教室を実施しました。教室では、現地の見学とあわせて、裸地と森林から流れ出る水の量や色を比較する模型実験を行いました。児童からは「森林ではない方からは茶色い水が一気に流れてしまうのに、森林からはきれいな水が徐々に流れ出てくるのに驚いた」等の感想があり、治山事業について理解を深めてもらうことができました。